

Ⅲ Sライナー18(サスティナ) – [ビス留め工法]

床張りの工法

二重床張り工法です。鋼製床下地構成材(JIS A 6519)に下張合板をタッピングビスにて留め付けた下地材に、大型積層床材『SVダイヤフロア Sライナー18(サスティナ)』を接着剤、雄実部分留付、脳天ビス留めにて施工して下さい。

施工前の点検

鋼製床下地の納まりにつき下記項目について点検し、不備な点が有れば申し入れ補正をしてから作業を進めて下さい。

- ①タッピングビス等の打ち忘れ
- ②根太鋼等のレベル不整
- ③根太鋼の角度、間隔等の不整
- ④体育器具据え置き箇所等の補強根太鋼の設置有無
- ⑤油、コンクリート等の汚染箇所の有無並びに除去
- ⑥床下地等の清掃有無

下張板

(1)下張合板(F☆☆☆☆推奨)

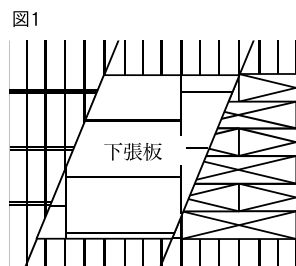
普通合板Ⅰ類、構造用合板で耐水性能を有し、日本農林規格合格品で厚さ12mm以上とし指定によります。但し、柔道場、剣道場、柔剣道場にあつては15mm以上とし指定によります。

(2)パーティクルボード(F☆☆☆☆推奨)

JIS A 5908、MタイプまたはPタイプで日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のもので厚さ20mm以上とし指定によります。

[割付け]

下張板は長手方向と根太鋼とが直角に交わる方向に置き、継ぎ手は根太鋼芯とし、合わせ目は短手の芯に合わせる縦レンガ張りとして下さい。



[ビス留め付け]

タッピングビスの打ち込みは、根太鋼ピッチ300mmの場合21カ所(板幅方向3本×7列)とします。ビス頭が下地面より出ないように頭が沈み込むまで十分に留め付けて下さい。留め付けはタッピングビス25mm以上とします。下張材の板厚に応じたタッピングビスの長さとし指定によります。

割付け

下張板に割付けを行い、床材は原則としてフロア中央部から両側に振り分けて張り進めますが、床の施工面積が小さい場合、片側から張り込んでもかまいません。

中央部の張り始め基準線は根太鋼と直交(大引鋼と平行)する片側の壁側から床材幅の倍数取り上に定める根太鋼と直交に割り付けて下さい(トランシットを使用しますと正確な墨出しが可能です)。

張り始めの1列には雇い実を床材雌実に着着嵌合させた後、床材を両側に振り分けてレンガ張り(千鳥)となるように割付けて下さい。

また床材の長手方向の接合部が根太鋼からはみ出さないよう予め根太鋼上に仮並べをして割り付け位置を確認し設定して下さい。

本製品は表面材に天然木を使用しておりますので、1枚1枚全て色柄が異なります。張り込む前に必ず仮並べを行い全体の色柄のバランスを取って下さい。

隠し釘、脳天ビス

下張板上に接着剤を塗布し、床材の留め付けに際して実部分の隠し釘の留め付けはフローアネール又はステーブル38mm以上とします。脳天ビス留め付けはタッピングビス41mm以上とします。

接着剤(F☆☆☆☆推奨)

接着剤はJIS A 5536(F☆☆☆☆)に適合する一液型ウレタン樹脂接着剤、またはエポキシ樹脂接着剤を使用して下さい。(接着剤の塗布量は、下張合板(針葉樹合板)の平滑性を考慮し、クシ目ペラで500~600g/m²が望ましい)

張り込み

下張合板上に接着剤(クシ目ペラで500~600g/m²)を塗布し、割付け図にならない床材のジョイント部分に段差が生じないように図2「床留め付け要領図」、図3「ビス留め付け位置詳細図」に従い留め付けを行って下さい。

使用時期や現場環境によって接着剤の硬化時間が異なります。オーバータイムによる接着不良防止の為、接着可能時間内に張り込み出来る範囲で接着剤を塗布して下さい。

図2「床留め付け要領図」

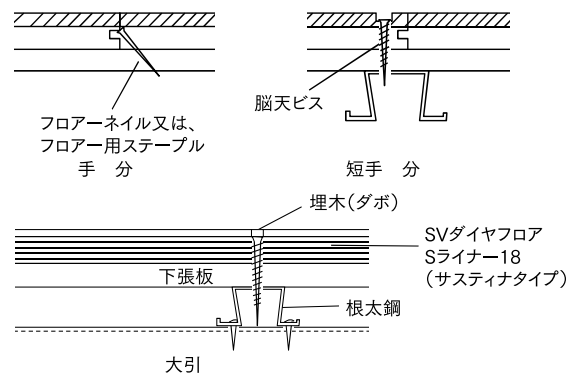
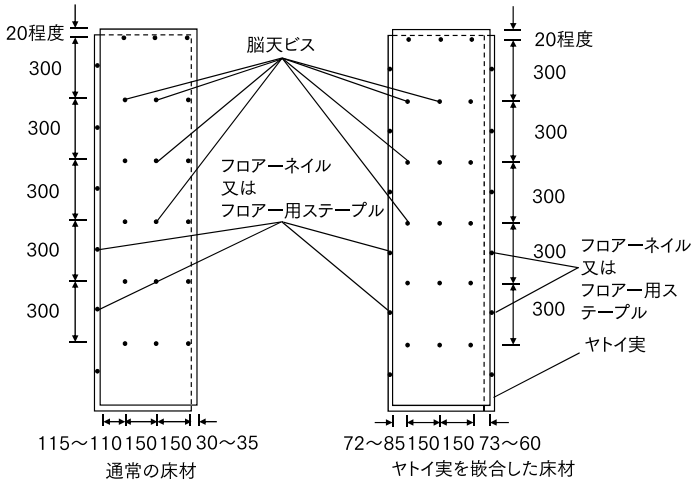


図3「ビス留め付け位置詳細図」



注①詳細図の脳天ビスピッチ寸法は目安です。
 注②ダボ穴は表面材ピース中央となるよう配置願います。
 注③「床暖房用」の場合[4×6列=24本/枚]として、鋼製下地材等と床材を一体化して下さい。
 その際、締め付け不足のないよう充分に注意して、留め付け作業を行って下さい。次の床板を張り込む時、ジョイント部に段差・隙間が生じないように施工し、通りよく並べ、留め付けて下さい。

[ヤトイ実のはめ込み要領]

雌実にヤトイ実をはめ込んでの施工については、図4の要領で留め付けて下さい。尚、図5のような施工にならないようご注意願います。

図4「ヤトイ実のはめ込み要領図」

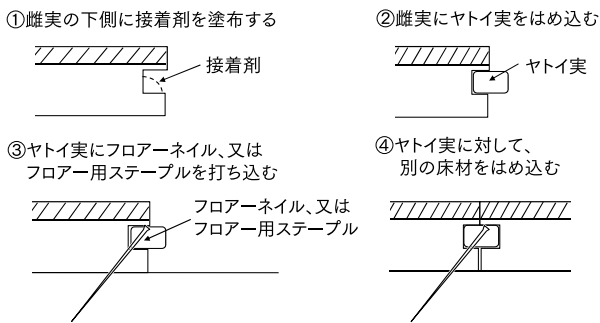
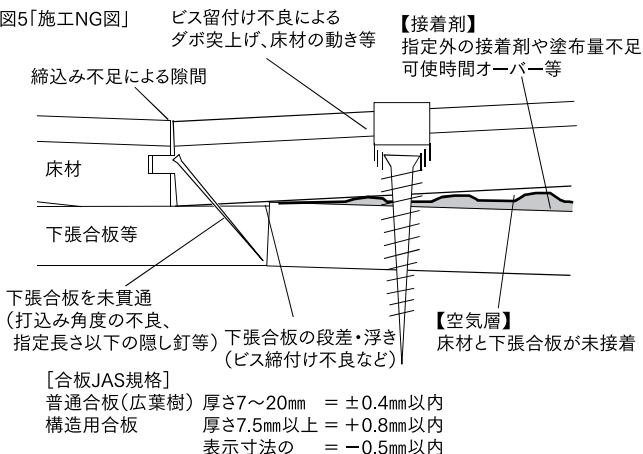


図5「施工NG図」



ビス留め付け

床材のビス留め付け作業は図3「ビス留め付け位置詳細図」に従ってダボ穴(直径9~9.5mm、深さ約4~5mm)をあけ、タッピングビス(φ4mm×41mm)を使用し脳天打ちして根太鋼に完全に留め付け固定して下さい。4~5列目を目安とし、接着剤が初期硬化する前に作業を完了させて下さい。

ダボ埋め込み

ダボ材はクルミ材を使用し、直径はダボ穴より約0.2mm太い物を使用し接着剤(酢酸ビニルエマルジョン)を塗布または充填したダボ穴に充分に打ち込み切断して下さい。

ダボ材の切断においては切り残しを出来るだけ少なくすることで後工程のサンダー掛け(研磨)作業が容易となります。

注①止むを得ず切りダボを使用する際は、ビスを打ち込んだ後のダボ穴より必ず長い物を使用し充分に打ち込むこと。接着剤は長ダボと同仕様。

注②樹脂ダボは使用しないこと。

注③ダボ埋め込み漏れのないこと。

エキスパンション

壁、幅木、敷居、点検口等には適当な空隙を空けエキスパンションを設けて下さい。空隙にはゴム、コーキング等を行う場合は指定によります。張り始め、張り終いは壁面から必ず約20mm以上あけて下さい。巾木呑み込み等の場合は現場の指示に従って下さい。特に環境湿度の高い地域は床材の伸びを考慮して下さい。

JAS規格により、床材の平均含水率14%以下となっております。施工地域・立地条件等の環境により、エキスパンションゴムまたは隙間を設定願います。目安として含水率の変動率「VII技術資料(P11)」を参照願います。

点検・養生

床材の張り込み作業が完了したら、床面全面を点検しダボの埋め込み漏れがあれば埋め込み、隙間があればパテ等で補修して下さい。

施工に使用した接着剤が完全に硬化するまで充分な養生期間を設けて下さい(24時間以上)。

サンダー(研磨)、塗装工程作業までに日数が掛かる場合は養生シート等でフローア表面全面を保護して下さい。

素地調整・サンディング(研磨)

張り込み完了後、段差、接着剤の付着、キズ、汚れ等を取り除き塗装工程の素地作りのためにサンディング(研磨)を行って下さい。素地調整(研磨)並びに次工程の塗装作業中においては許可無く床面に立ち入らないで下さい。砂、石などの異物により床面にキズの発生やサンドペーパー破損の原因となります。

(1)荒掛け

第1回目の荒掛けサンディングに用いるサンドペーパーは#40前後を標準として用い、ダボの目違い及び汚れ払いを行って下さい。

(2)中掛け

第2回目の中掛けサンディングに用いるサンドペーパーは#80前後を標準として用い、荒掛けサンドペーパーの目払いを行って下さい。

(3)仕上げ

第3回目の仕上げサンディングに用いるサンドペーパーは#80～100以上を標準として、中掛けのサンドペーパーの目払いを完全に行い、塗装仕上げの素地を作る。

床面にサンダーの筋目、さざ波等の削りむらが出来ないよう充分注意して下さい。

(4)清掃

床面の清掃は電気掃除機を用いて研磨粉やその他の異物を完全に取り除いて下さい。

塗装

ポリウレタン樹脂塗料(湿気硬化型、2液硬化型)、3回塗りを推奨致します。それ以外の塗料についてはご相談下さい。

塗装要項は塗料メーカーの作業標準として下さい。

※ささくれ問題の対策に「ササクレス」加工をお勧めします。

完了報告

VI.共通項目完了報告(P11)をご参照下さい。

安全管理

VI.共通項目安全管理(P11)をご参照下さい。

詳しくは、日本フローリング工業会発行の「フローリング張り標準仕様書(令和2年度版)」をご参照下さい。

フローリング張り標準仕様書(令和2年度版)

第8章 体育館用フローリングの工法(P23)

第2節 ビス留め工法(P24)

第3節 下張り(P26)

第4節 研磨・塗装・ライン引(P28)

第5節 メンテナンス(P29)